

スカートについて

京都女大家政 ○ 畠山絹江 京都女子高 岡川裕子

目的 スカート原型のパターンメイキングについて、ダーツの位置、ダーツ量、ダーツ長の決め方は、各種各様である。本研究は下半身の形態因子を促え基礎資料を得ると共に、人体因子とパターンメイキングの関連性、身体への適合性、美的効果について考察し、新しいスカート原型の設定を試みた。

方法 女子学生100名について下半身形態の体型分類を行ない、この中から出現率の多かった7体型を選び、下半身のレプリカを採った。この資料に胴囲、腰囲の周囲長から求めた分割線を入れ、電鏡紙で転写し右半身を平面展開し、分割線にあらわれたダーツ量、ダーツ長を測定した。次に5種の原型とヌードパターンを比較し、更に新しい原型を設定して、石膏モデルによる試着観察をモアレ写真より行なった。

結果 ①ダーツについて後では正中線より後ウェスト幅 $\frac{3}{6}$ の位置でどのタイプもダーツ量が大きく平均値 $2.9\text{cm}$ 、ダーツ長 $18\text{cm}$ であり、この位置は殿部突出点とほぼ一致した。次に正中線より $\frac{4}{6}$ の位置ではダーツ量 $2.4\text{cm}$ 、ダーツ長 $18\text{cm}$ であり、両者とも変動係数は小さかった。②前では正中線より $\frac{4}{6}$ の位置でダーツ量 $2.2\text{cm}$ 、ダーツ長 $15\text{cm}$ であり、この位置は腸骨棘の位置とほぼ一致した。③前 $\frac{1}{6}\sim\frac{3}{6}$ の位置では、腹部の形態によりダーツ量にバラツキが認められた。④ヌードパターンと各種原型を計測値やモアレ写真から比較すると、ダーツの位置は分割式で求めた方が形態因子もカバー出来、美的効果も良好であった。